



本葉が1枚出た頃、1カ所2本に間引きます。本葉が3〜4枚の頃、1本にします。これで一つの袋に4本になります。2回目の間引きは、残す株を傷付けないように気を付けましょう。間引いたゴボウは食べられますが、大きくならないので、つれて葉はアークが強くなるので、ゆでこぼしたりしてから使いましゅう。

2回目の間引きの際に追肥をします。



間引き・追肥

10〜15cm間隔で3〜4粒ずつ4カ所に点まします。

明るい状態で芽が出る好光性種子なので、覆土はごく薄く3mm程度にします。土をかぶせにくければ、ふるいを使うとやりやすいです。土に密着させることによって発芽しやすくなるので、上から手のひらで押さえておきましょう。

ゴボウは過湿を嫌うので乾きやすい袋栽培は適した方法だといえますが、高温時は想像以上に乾きやすいので注意します。土が乾いたらたっぷり水をやりましゅう。



種まき



土を崩して簡単に収穫♪



袋を切って

種まきから100日くらいが収穫目安です。株元の根が直径1cmになったら新ゴボウとして収穫できます。やわらかくて香りが良く、おいしいです。葉が青いうちは成長するので、あまり畑に置いておくと太くなりすぎてスが入ります。スが入っても食べられますが、直径2cm以下で収穫し終わるのが良いです。

袋栽培の収穫は袋を切ればよいので簡単です。



収穫

人気御礼! グリーンファームカレッジ追加講習のお知らせ

2021年度グリーンファームカレッジについて、大変多くの申し込みがあり、ほとんどの講座が定員に達しました。お申し込みありがとうございます。

異例の早さで定員に達してしまいましたので、より多くの皆さまに受講していただきたいという思いのもと、**特に人気の高い5つの講座の追加講習を決定しました!!**

〇講座と追加講習日

講座名	定員に達した講習日	追加講習日
肥料の基礎知識	3月20日(土)	9月 11日(土)
家庭菜園の病害虫防除対策	6月26日(土)	6月 25日(金)
秋冬野菜の栽培のコツ	7月10日(土)	7月 9日(金)
干し柿の上手な作り方(初心者向け)	10月16日(土)	10月 15日(金)
連作障害と堆肥の基礎知識	10月23日(土)	10月 30日(土)

〇追加講習申し込み受け付け開始日 2021年3月12日(金)

※受講申し込みは、グリーンファーム中央店でのみ受け付けます。

※受講を希望される方はグリーンファーム中央店までお越しいただき、申込書の提出と受講料のお支払いをお願いいたします(欠席の場合の返金はいたしませんのでご了承ください)。

※電話での申し込みは受け付けません。

※受講料、講習時間等は既存の講習と同じです。本誌先月号または当JAホームページでご確認ください。



〇お問い合わせ
グリーンファーム中央店
(担当:山口・渡辺)
☎29-8177

ほうさくClub!に関するお問い合わせは、各グリーンファーム店まで

◎中央店☎29-8177 ◎東部店☎62-0665 ◎西部店☎22-4091
◎さなだ店☎72-8072 ◎まるこ店☎42-2977 ◎よだくば南部店☎85-2400
◎しおだ店☎39-8118

気軽に家庭菜園

ほうさくClub!

第224回
今月は

「ゴボウ」に挑戦!

★これがゴボウのスケジュールだよ。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			種まき					収穫			

●施肥基準 (1㎡あたり・一例) ■苦土石灰150g ■堆肥3kg ■BBN552号60g ■BB追肥N30号20g×1

文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合もあります。不明な点は、営農技術員にお問い合わせください。



畑の準備

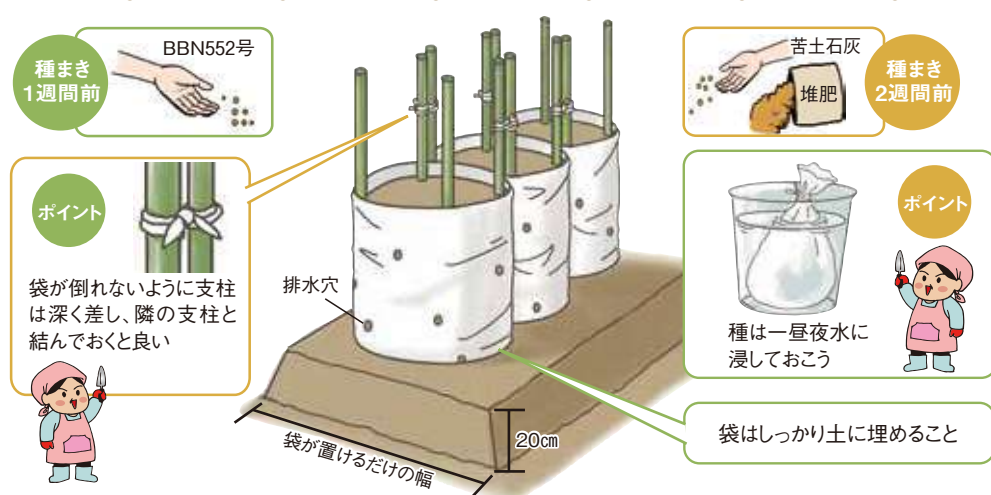
種まきの2週間前に苦土石灰と堆肥を、1週間前に化成肥料をまいて深く耕します。袋を使うことをお勧めしますが、袋を使わない場合は、水はけの良い土で80cm以上の深さに耕すことが理想的です。「ミニゴボウ」や「サラダゴボウ」は、長さ50cm程度で収穫できるので作りやすいです。袋を使う場合には、高さ20cm程度のうねや畝つくりを作り、その

漢方として使われることはあっても、食用にしているのは日本だけといわれているゴボウ。きんぴらやかき揚げ、煮物やサラダなどさまざまな料理に引っぱりだこ!食物繊維が豊富なことで知られています。

「一気に抜くことを『ぽう抜き』といいますが、ゴボウは収穫時に抜こうと思っても細い根がたくさんあるので全然抜けませんし、無理に引く張るとちぎれてしまいます。実際に収穫する時は、抜くというより横に深い溝を掘って取り出すような感じです。

ちなみに、味噌漬けで知られる「ヤマゴボウ」は本名「モリアザミ」といいます。ゴボウとは違う野菜で、種をまく時期は夏です。

粘土質の畑が多い上田地域では作りにくいと思われがちですが、今回は袋を使った栽培を紹介します。魅力がたっぷりのゴボウに挑戦しましゅう。



上に堆肥や肥料の袋の上下を切つて筒状にしたものを使って行燈(あんどん)を作ります。行燈を満たすように土を入れ、袋の側面に支柱などで穴を開けて排水できるようにしておきます。種まき前日にたっぷり水をやって湿らせておきましょう。

種は一昼夜水に浸しておくで発芽しやすいです。